TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　389語

Why the Raven's Feathers are Black

カラスの羽はなぜ黒い

Florence Holbrook（1902年の本）　原文そのまま　朗読：Leannie Rach

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　むかし、カラスの羽はまっ白でした。でもカラスはどろぼうで、ある朝、歌っていた黄色い小鳥をつかまえてしまいます。それを見ていたのは……。



Long, long ago the raven's feathers were white as snow. He was a beautiful bird, but the other birds did not like him because he was a thief. When they saw him coming, they would hide away the things that they cared for most, but in some marvelous way he always found them and took them to his nest in the pine-tree.

One morning the raven heard a little bird singing merrily in a thicket. The leaves of the trees were dark green, and the little bird's yellow feathers looked like sunshine among them.

"I will have that bird," said the raven, and he seized the trembling little thing.

The yellow bird fluttered and cried, "Help, help! Will no one come and help me!"

The other birds happened to be far away, and not one heard her cries. "The raven will kill me," she called. "Help, help!"

Now hidden in the bark of a tree was a wood-worm.

"I am only a wood-worm," he said to himself, "and I cannot fly like a bird, but the yellow bird has been good to me, and I will do what I can to help her."

When the sun set, the raven went to sleep. Then the wood-worm made his way softly up the pine-tree to the raven's nest, and bound his feet together with grass and pieces of birch-bark.

"Fly away," whispered the wood-worm softly to the little yellow bird, "and come to see me by and by. I must teach the raven not to be cruel to the other birds."

The little yellow bird flew away, and the wood-worm brought twigs, and moss, and birch-bark, and grass, and put them around the tree. Then he set them all on fire. Up the great pine-tree went the flames, leaping from bough to bough.

"Fire! fire!" cried the raven. "Come and help me! My nest is on fire!"

The other birds were not sorry to see him flutter. "He is a thief," said they. "Let him be in the fire."

By and by the fire burned the grass and the pieces of birch-bark that fastened his feet together, and the raven flew away. He was not burned, but he could no longer be proud of his shining white feathers, for the smoke had made every one of them as black as night.

ずっとずっとむかし、カラスの羽は雪のようにまっ白でした。カラスは美しい鳥でしたが、どろぼうだったので、ほかの鳥たちにきらわれていました。カラスがやってくるのを見ると、鳥たちはいちばん大切なものをかくしました。でもカラスは、どういうわけかいつもそれを見つけて、マツの木の上の自分の巣へもっていってしまうのでした。

ある朝、カラスは、しげみの中で小さな鳥が楽しそうに歌っているのを聞きました。木の葉はこい緑色で、その中で小鳥の黄色い羽はお日さまの光のように見えました。

「あの鳥をいただこう」とカラスは言って、ふるえている小鳥をつかまえました。

黄色い小鳥ははねをばたばたさせてさけびました。「助けて、助けて！だれか助けに来て！」

ほかの鳥たちはちょうど遠くにいて、1羽もさけび声を聞きませんでした。「カラスにころされちゃう」と小鳥はさけびました。「助けて、助けて！」

さて、1本の木の皮の中に、1ぴきの木の虫がかくれていました。

「ぼくはただの木の虫だ」と虫はひとりごとを言いました。「鳥みたいにとぶことはできない。でも、黄色い小鳥はぼくにやさしくしてくれた。できるだけのことをして助けよう。」

お日さまがしずむと、カラスはねむりました。そこで木の虫は、そっとマツの木をのぼってカラスの巣まで行き、草とシラカバの皮で、カラスの両足をしばりました。

「にげて」と木の虫は小さな黄色い小鳥にそっとささやきました。「またそのうち会いにきてね。ぼくはカラスに、ほかの鳥たちにいじわるをしてはいけないって教えなきゃならないんだ。」

小さな黄色い小鳥はとんでいきました。木の虫は、小枝やコケやシラカバの皮や草をもってきて、木のまわりにおきました。そして、それに火をつけました。大きなマツの木を、ほのおが枝から枝へとびうつりながらのぼっていきました。

「火事だ！火事だ！」とカラスはさけびました。「助けに来て！巣が燃えている！」

ほかの鳥たちは、カラスがばたばたしているのを見ても、かわいそうだとは思いませんでした。「あいつはどろぼうだ」と鳥たちは言いました。「火の中にいればいいさ。」

やがて火が、カラスの足をしばっていた草とシラカバの皮を燃やしたので、カラスはとんでにげました。カラスはやけどはしませんでしたが、もうかがやく白い羽をじまんすることはできなくなりました。けむりのせいで、羽が1まいのこらず夜のようにまっ黒になってしまったからです。

たんご と クイズ　カラスの羽はなぜ黒い

raven カラス	feathers 羽	snow 雪
pine-tree マツの木	thief どろぼう	wood-worm 木の虫
grass 草	nest 巣	

Q1 むかし、カラスの羽は何色だった？

① 黄色　② 白　③ 青

Q2 黄色い小鳥を助けたのはだれ？

① 木の虫　② フクロウ　③ ほかの鳥たち

Q3 カラスの羽が黒くなったのはどうして？

① どろ水をかぶったから　② 夜の空をとんだから　③ 火事のけむりのせい

こたえ

Q1 ②　ずっとむかし、カラスの羽は雪のようにまっ白で、カラスはそれをじまんにしていました。

Q2 ①　木の皮にかくれていた木の虫が、やさしくしてくれた小鳥のために、カラスの足をしばってにがしてあげました。

Q3 ③　巣のまわりが燃えて、そのけむりでカラスの羽は1まいのこらず夜のようにまっ黒になりました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Leannie Rach（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。